

# 大田区地域福祉活動計画 推 進 委 員 会

(令和7年度 第1回)

○日 時：令和7年5月26日（月）  
10時00分～11時10分  
○会 場：大田区社会福祉協議会  
4階会議室

1. はじめに（進行：事務局）

2. 委員長挨拶

3. 新任委員の紹介

資料1

4. 報告事項

- （1）令和6年度大田区地域福祉コーディネーター活動報告書の  
完成について

5. 審議事項（進行：委員長）

- （1）第7次大田区地域福祉活動計画 令和6年度評価について

資料2  
参考

- （2）第7次大田区地域福祉活動計画の進行管理について

資料3

6. 連絡事項その他

- （1）住民懇談会の開催について

- （2）地域協議会について（11：20～）

- （3）次回開催予定：令和7年11月頃

## 大田区地域福祉活動計画推進委員会 委員名簿

令和7年5月1日現在 敬称略

	氏 名	選出母体・役職等
委員	黒 岩 亮 子	学識経験者(日本女子大学 教授)
委員	吉 野 鷹 夫	大田区自治会連合会
委員	樋 口 幸 雄	大田区自治会連合会
委員	常 安 雅 彦	大田区民生委員児童委員協議会会長
委員	宮 澤 勇	NPO法人大身連理事長
委員	川 崎 洋 子	大田区精神障害者家族連絡会会長
委員	橋 本 朋 子	大田区肢体不自由児(者)父母の会会長
委員	宮 田 千寿子	大田区重症心身障害児(者)を守る会会長
委員	閑 製 久美子	大田区手をつなぐ育成会会長
委員	沼 本 光 史	大田区シニアクラブ連合会
委員	村 山 美智恵	大田区食事サービス連絡会会長
委員	中 野 真 弓	NPO法人おおた市民活動推進機構代表理事
委員	齋 藤 弘 美	社会福祉法人大洋社常務理事
委員	佐 藤 正 浩	大田区生活再建・就労サポートセンター JOBOTA所長
委員	浜 洋 子	NPO法人大田区介護支援専門員連絡会
委員	西 嶋 美 波	東京都社会福祉協議会 地域福祉部地域担当
委員	山 浦 賢 一	大田区福祉部








## 第7次大田区地域福祉活動計画 令和6年度評価（案）

基本目標		5年後の地域の姿 【アウトカム指標】		取組	共通アンケートで「5年後の地域の姿」が現状できていると答えた人の割合	評価指標による評価 【アウトカム指標の活動指標】		住民懇談会で出た意見や大田区社協の取組の進捗状況を踏まえた基本目標ごとの総合評価	関係する大田区地域福祉計画の指標
1	顔が見える関係を大切にすまち（つながりづくり）	1	ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」をつくっている。	1	日常的にゆるやかにつながり、災害時などに助けあえる関係性をつくろう。	36.8%	① 災害ボランティア関連イベントの参加者数 ・災害ボランティア育成講座 34人 （前年度 27人） ・災害ボランティアバンク登録者交流会 26人 （前年度 35人）	住民懇談会では、身近なところからできる「あいさつ・声掛け」の意見が最も多くありましたが、「つながりづくり」に関する意見としては、特定の対象、機会、テーマによる「つながりづくり」のニーズがあることや、つながりを作りづらい住民やコミュニティとの関係構築に課題があること、地域の情報が十分に伝わっていない状況がある、などがありました。  災害ボランティア関連のイベントでは、地域の中で災害時に助けあえるような顔の見える関係性の大切さを伝えることができていますが、参加者数が増えるとなおその効果は顕著になると見込まれます。  つながりづくりの一環としての情報発信では、大田区社協のホームページアクセス数とXフォロワー数ともに上昇傾向にあり、地域情報などの発信をきっかけに、更なるつながりが生まれることが期待されます。  たすけあいプラットフォームや住民懇談会のような住民同士が語り合う場の必要性についての意見は多くありますが、住民懇談会は参加者数が減少傾向にあり、更なる取組が必要です。	・災害時に、できる範囲で地域のために活動ができる人の割合（基本目標3）
		2	地域で起きていることについて、住民同士が一緒に考えている。	2	同じ地域で暮らす人々や、活動を行う団体、企業がつながりあえる場をつくり、地域の中での困りごとを受けとめよう。	20%	② 大田区社協のホームページアクセス数、X（旧Twitter）フォロワー数 ・ホームページアクセス数 145,490件 （前年度 140,194件） ・Xフォロワー数 1,825件 （前年度 1,477件）		
		2				20%	① たすけあいプラットフォームの数、開催回数 ① 蒲田西 3回 （前年度 1回） ② 矢口 3回 （前年度 4回） ③ 池上徳持南 3回		・多様な主体の連携・協働が住みやすい地域づくりにつながっていると実感している人の割合（基本目標2）
							② 住民懇談会の参加者数 1回開催 61人 （前年度 2回開催 169人）		

基本目標		5年後の地域の姿 【アウトカム指標】		取組	共通アンケートで「5年後の地域の姿」が現状できていると答えた人の割合	評価指標による評価 【アウトカム指標の活動指標】		住民懇談会で出た意見や大田区社協の取組の進捗状況を踏まえた基本目標ごとの総合評価	関係する大田区地域福祉計画の指標
2	自分の居場所や役割があるまち（居場所づくり）	3	地域の中で生きがいを持って、生活することができる。	3地域の中で活動などに参加したり、役割の担い手になったりすることで、いきいきと過ごせるようにしよう。	34.2%	① 絆サポーターの登録者数	415人 (前年度 370人)	住民懇談会では、「男性の居場所」についての意見が最も多く、誰でも集まれる「集いの場」のニーズも多く見受けられました。  一方で地域の居場所についての情報が不足していることも多く挙げられており、経営計画の事業戦略1でも掲げている「社会資源リストやマップの作成」が必要であることがあらためて浮き彫りとなりました。  合わせて居場所づくりにあたっての場の確保や資金面についても課題があり、特に場の確保については社会福祉法人をはじめとした地域の様々な団体の協力が不可欠であると考えられます。	・現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思う人の割合(基本目標2)
						② 「大田区いきいきしごとステーション」における就労等のマッチング件数	・新規求職者数:728人 (前年度 722人) ・就職者数:99人 (前年度 130人) ・多様な働き方に対する相談:543人 (前年度 489人)		
		4	地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	4居場所を提供する団体などを支援し、人が集う機会や役割を増やそう。	33.9%	① 居場所づくりの相談件数と地域の居場所の数	相談件数:38件 居場所立ち上げ件数:18件 居場所の数:101 (前年度:88) (つどいの場助成団体数)	こども食堂が地域で果たす居場所としての役割は大きく、大田区社協としても支援を継続することが必要です。  また、大田区社協の取組として、役割の担い手としての絆サポーターの登録者数や、大田区いきいきしごとステーションでの多様な働き方に対する相談対応数は増加傾向にあり、「その人だからこそできること」を支援し、やりがいや生きがいをもって生活できる方を今後も増やす取組の継続が必要です。	・孤立感や孤独感がないと答えた方の割合(基本目標1) ・自宅以外で居心地のよい場所を持てる人の割合(基本目標1)
						② 活動場所の貸出を行う団体等の件数 (「つどいの場」運営支援事業と地域福祉活動団体支援事業の助成を受けている団体資料から抽出)	・自治会・町会 18件 (前年度 17件) ・社会福祉法人 2件 (前年度 1件) ・教会 2件 (前年度 2件) ・企業 1件 (前年度 0件)		

基本目標		5年後の地域の姿 【アウトカム指標】		取組	共通アンケートで「5年後の地域の姿」が現状できていると答えた人の割合	評価指標による評価 【アウトカム指標の活動指標】		住民懇談会で出た意見や大田区社協の取組の進捗状況を踏まえた基本目標ごとの総合評価	関係する大田区地域福祉計画の指標		
3	身近なところで ささえあうまち (支えあい)	5	ひとりで悩まずに、 相談することができる 場所(人)がある(いる) ことを知っている。	5	地域の中には気軽に相談 できる場所(人)がある(いる)ことを知り、ひとりで悩んでいる人がいたらそのことを伝えよう。	42.3%	① 地域福祉コーディネーターへの相談件数、 専門機関につないだ件数	個別支援相談者数:321人 (前年度 134件)	共通アンケートにおいて、「5年後の地域の姿」が現状できていると答えた人の割合が最も高かったのが「ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。」であり、それを裏付けるように、地域福祉コーディネーターへの相談者数や民生委員・児童委員への相談件数は増加傾向にあります。  また、生活福祉資金事業や受験生チャレンジ支援貸付事業の相談をきっかけに社協内他部署や民生委員児童委員、関係機関との連携により相談支援に取り組んだケースも見受けられました。  その一方で住民懇談会では地域の中での支えあい活動を行う団体の人材・担い手不足についての意見が多くあり、地域活動団体の相談や支援について、団体相互の情報共有を深める取組の必要性が感じられました。  企業の社内フードドライブなどによる食料寄附は、CSRの一環として定着してきているとともに、食料は昨今の物価高やコメ不足の影響から必要とする人が多いことから、「身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支え合っている」という目指す姿に近づいていることを実感できました。今後は食料寄附に限らず、地域の中の困りごとと企業が得意とすることを繋ぎ合わせて解決に導くようなコーディネートも必要であると考えられます。	・困りごとを抱えた際に誰にも相談できない人の割合(基本目標3)	
				② 民生委員・児童委員への相談件数	相談件数 5,343件 (前年度 5,227件) 関係機関への連絡調整回数 27,726回 (前年度 28,133回)						
			6	身近な人の困りごとに 心を寄せつつ互いに 支えあっている。	6	ボランティア活動や企業などの地域貢献活動を通じて、地域の中の困りごとを受けとめ、みんなで支えあおう。	29.7%	① ボランティア登録者数		個人:139人 (前年度 104人) 団体:144団体 (前年度 128団体)	・現在住んでいるまちで何らかの地域活動に参加したいと思う人の割合(基本目標2)
						② 地域貢献活動・CSR活動の相談・支援件数		企業等による食料等寄附 40件 (前年度 38件) 企業等からの相談件数: 12件 (前年度 15件)			



基本目標		5年後の地域の姿 【アウトカム指標】		取組	共通アンケートで「5年後の地域の姿」が現状できていると答えた人の割合	評価指標による評価 【アウトカム指標の活動指標】		住民懇談会で出た意見や大田区社協の取組の進捗状況を踏まえた基本目標ごとの総合評価	関係する大田区地域福祉計画の指標
4	お互いを認めあい 誰もが自分らしく 暮らせるまち (自分らしく生きる)	7	一人ひとりの生き方を理解しあっている。	7	地域で暮らすさまざまな人たちへの理解を深めるために福祉学習に参加しよう。	25.2%	① 夏！体験ボランティアの参加者数	参加者数:163人 (前年度 141人) 	住民懇談会や共通アンケートでは、誰もが自分らしく暮らせるようにするためには、という意図が伝わりづらかったようで、問いかけの仕方に課題を残しました。  夏！体験ボランティアや、学校での福祉体験学習が今後ますます地域に浸透し、誰もが自分らしく生きられ、互いを理解しあうきっかけとなっていくよう取り組むことが今後必要です。  また、誰もが自分らしく生きられるようにするための取組として権利擁護支援も着実に進んでいます。成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知啓発をはじめ、老いじたくや親なきあと講演会、地域連携ネットワークづくり等を通じて、目指す5年後の地域の姿に近づく取組を更に進める必要があります。
							② 福祉教育の支援件数と参加者数	支援件数:7件 (前年度 6件)  参加者数:597人 (前年度 721人) 	
		8	判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	8	障害や認知症などの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるよう、権利擁護の推進をはじめとした支援について理解しよう。	21%	① 成年後見制度等の区民向け講座の参加者数	親族向け成年後見講座:48人 (前年度 41人)  親なきあと講演会:58人 (前年度 26人)  老いじたくセミナー:206人 (前年度 189人) 	・さまざまな特徴や個性を持つ人たちに対し、思いやりや優しさを持って接することができる人の割合(基本目標1)  ・成年後見制度の利用者数 ・成年後見制度の認知度 (成年後見制度利用促進基本計画)
							② 出前講座等による成年後見制度や老いじたく等の研修会への協力件数と参加者数	協力件数:19件 (前年度 19件) 参加者数:453人 (前年度 280人) 	

---

## 第7次大田区地域福祉活動計画 進捗状況管理表

基本理念:みんなでつくる 共につながりあう まち

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と 令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
1 顔が見える関係性を大切にするまち	ちょっとした声かけなど、気軽に「つながり」を作っている	取組1:日常的にゆるやかにつながり、災害時などに助けあえる関係性をつくろう。	<p>・住民がイベント情報や地域の取組を共有できるよう地域の情報をシェアしやすいオンラインプラットフォームを構築します。</p> <p>・写真や投稿を通じて、コミュニケーションの輪を広げます。</p> <p>・自治会・町会、民生委員児童委員と住民、地域活動団体、社会福祉法人、企業がつながることの大切さをあらためて再認識し、住民相互の活動への参加や協力を積極的に行えるよう、情報提供や集う場の設定を支援します。</p>	<p>・地域福祉コーディネーターが積極的に地域に出向き、望まない孤独・孤立を抱えている人が地域とつながれるよう支援します。</p> <p>・身近な場所で開催する災害ボランティアに関する講座などを通じて、日頃から地域の中でつながりを持っていることが災害時のささえあいの基礎となることをお伝えし、講座に参加された人同士がつながりを持つ機会となるよう事業展開します。</p>	<p>【地域共生担当】 令和6年度上半期(9月末)の個別支援ケース196件に対して地域資源につなげているケースが32件(16%)となっています。重層的支援会議を実施したケースにおいて専門職の支援の調整だけではなく、地域の資源を活用して本人の孤独・孤立の解消に向けて支援を行いました。</p> <p>【ボランティア担当】 ・災害ボランティア事業 普及啓発事業(10/6 嶺町小学校防災拠点訓練への参加。参加者数約70名)及び育成講座(8/29 災害ボランティア体験「もし大田区で被災したらー被災者から支援者へー」参加者数18名、11/16「災害ボランティアバンク登録者交流会」参加者数17名)を通して、子どもから大人まで、地域の中で災害時に助け合えるような顔の見える関係になることの大切さを伝えました。 令和7年度も、大田区及び関係団体と協働した普及啓発事業及び育成講座を通して、日頃からの地域の中でのつながりが災害時の支え合いの基礎となることを伝えていきます。</p> <p>・ご近所さん事業 利用者数は、令和5年度と比較して5割減少しています。令和6年6月から始まった区のファミリーアテンド事業が影響していると思われます。利用者数:21名、サポーター数:38名(令和6年11月30日時点) 令和6年度に対象地区の拡大(1カ所)を検討しましたが、利用予定者が少数と見込まれるなどの要因があったため、拡大を見合わせました。 この事業は、ご近所さんサポーター(地域のボランティア)と子育て世帯が、利用中だけではなく、利用終了後も地域であいさつを交わすなどのゆるい関係を構築しています。また、ファミリーアテンド事業を利用できない第2子を出産されたお母さん宅への訪問などのニーズがあるため、継続して実施してく予定です。 令和7年度は、利用者へのヒアリングを実施し、ニーズ把握と課題整理を行い、対象地区の</p>	<p>【地域共生担当】 望まない孤立・孤独を抱えている人が地域とつながれる支援体制の構築のため、重層的支援体制整備事業における参加支援事業について令和7年度は定期的に行政との定例会を実施し、各ケースについて共有しながら参加支援プランの作成を進めることで、地域資源と本人とを効果的につなぎ、孤独・孤立の解消を図っていきます。</p> <p>【ボランティア担当】 ・災害ボランティア事業 7月に初心者講座、秋にリーダー育成講座、年明けに災害ボランティアセンター設置・運営訓練の実施を予定しています。初心者講座は参加者にいきなり災害ボランティアについて知ってもらうよりも、実際に起きうる災害や減災など身近な課題から学んでもらう方向で検討しています。リーダー育成は実際に使用可能な防災器具等を使用した訓練を検討しています。</p> <p>・ご近所さん事業 「ご近所さんサポーター」が概ね1歳の誕生日までに毎月子育て世帯を訪問し、ちょっとした声かけや地域の情報提供をします。それにより、利用者の子育てへの不安を和らげ、地域とのつながりづくりを支援します。</p>



基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
					<p>拡大に向け再度検討を行います。</p> <p>・<b>れいんぼう事業</b> 大森、久が原の各地区ごとに、毎月「学習、食育、健康・園芸」プログラムを実施。2月には漢字検定に挑戦し、1年間の学習の成果を発揮する機会となりました。体験プログラム「子ども民生委員活動」では、6月委嘱式、10月いつつのわふれあいまつり参加、12月街頭募金活動を通して、大森東地区民児協にご協力いただきながら、福祉人材を育成する機会となりました。 令和7年度は、コロナで中断していた一般募集を行い、地域からの参加者を増やします。広報にあたっては、法人協、民児協、専門機関などつながりながら実施していきます。</p>	<p>・<b>れいんぼう事業</b> コロナ禍で中断していた一般公募を再開し、昨年同様、学習・食育・健康・園芸のプログラムを毎月実施します。子ども民生委員として地域のお祭りへの参加や街頭募金活動などを行います。 また、法人協のれいんぼう事業としての位置付けを明確にするため関連法人の事業参加を促していきます。</p>
	地域で起きていることについて、住民同士と一緒に考えている	取組 2:同じ地域で暮らす人々や、活動を行う団体、企業がつながりあえる場をつくり、地域の中での困りごとを受けとめよう。	<p>・地域で暮らす人や活動する人などが集う場を設け、地域の課題や困りごとなどを受けとめ解決に向けた動きを共に考える機会とします。</p> <p>・オンラインも含めた気軽に話せる場づくりを検討し、多様な形での交流を実施します。</p> <p>・住民懇談会で本計画の進捗状況について意見交換し、今後の取組につなげていきます。</p>	<p>・プラットフォームから生まれた新たな地域の取組を支援し、地域づくりにつなげます。</p> <p>・地域の中のさまざまな活動団体などの情報を整理し、その情報を必要とする人に届くよう提供するしくみを整えます。</p>	<p>【計画・組織基盤・人材育成担当】</p> <p>・<b>住民懇談会</b> 予定どおり実施し、4会場合計で61名の参加がありました。広報等に力をいれましたが、参加者は減少傾向にあり、開催日を平日だけでなく休日も実施したり、こちらから会合に向いて出張開催をしたりするなどして、令和7年度はより多くの方からのご意見を伺える体制づくりを検討します。</p> <p>【地域共生担当】 今年度新規に1か所のプラットフォームを立ち上げ(池上徳持南地区)4か所となりました。実施結果等を社協HPに計18回、SNSには随時発信しました。今後も地域ごとに地域課題について話し合いを重ねながら地域の課題・状況に合わせて「外国籍住民の課題」「障害当事者の居場所」「小地域ごとの居場所」「子どもSOSの家の普及啓発」等の活動を行っていきます。</p>	<p>【庶務・計画担当】</p> <p>・<b>住民懇談会</b> 昨年度に引き続き、7月末に住民懇談会を開催します。区報に記事を掲載し、開催日も日曜日を加えるなどして、参加者増を目指します。また、オンライン開催や会合に伺って意見聴取する機会づくりについても検討します。</p> <p>【地域共生担当】 現在、4か所実施しているプラットフォームについて、各地域の課題や状況に応じて複数回実施していきます。実施結果については、SNSやHP等を通じて発信していきます。 また、今年度1か所のプラットフォームの新規立ち上げを目指し、立ち上げ以前の地域との信頼関係の構築や地域課題の把握に努めます。</p>

基本目標		5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と 令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
				大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
2	自分の居場所や役割があるまち	地域の中で生きがいを持って、生活することができ る。	取組 3:地域の活動などに参加したり、役割の担い手になったりすることで、いきいきと過ごせるようにしよう。	・さまざまなボランティア活動や地域活動などへの参加のきっかけを作り、地域の中での新たな活躍の場を広げます。	・地域で活動する団体の担い手不足と地域で活動してみたいと考える人の情報をつなぎ、つながりと交流の場を広げます。	【ボランティア担当】 ・絆サポート事業 令和6年12月現在 新規絆サポーター登録 45人 絆サポーター出張登録説明会 4回開催 新規絆サポーター登録6人(合計51人) Bカフェ(絆サポーター研修会)3回開催 41名参加 令和7年度から絆サポート産前産後サービスの利用期間を拡大(産前8週・産後12週→産前16週・産後24週)します。 着実な絆サポーター(担い手)の増強と、それに伴うサービスの充実に取り組んでいます。 今後も絆サポートを通して、地域の中で役割を持つことのできる活動の拡大に取り組めます。	【ボランティア担当】 ・絆サポート事業 子育て世帯が地域とつながる機会を増やすため、絆サポート産前産後サービスの利用期間を拡大(産前8週・産後12週→産前16週・産後24週)します。 より多くの地域住民が、絆サポートを通して、地域の中で役割を持つことのできる活動に参加できるよう、絆サポーター出張登録説明会の機会を増やし参加の拡大に取り組めます。
				・大田区社会福祉法人協議会(おおた福祉ネット)として「ふくしのしごと市」を開催し、福祉専門職や資格がなくても働ける職も含め、担い手づくりを進めます。	・高齢者や産前産後の人、障害のある人への家事支援を行う「絆サポート」や、見守りが必要なご家庭への定期的な訪問活動「ほほえみごはん事業」「ご近所さん事業」、一人暮らし高齢者の安否確認を兼ねた訪問活動「ほほえみ訪問事業」などを、住民のささえあい活動により展開することで、幅広い年代の人が性別や経歴を問わず活躍できるよう取り組みます。		
				・特技を披露したり、使用済み切手を整理したりするなど、ボランティア活動にもさまざまな形があり、それぞれにあった活動の紹介をすることで、支援を受けている人も支援する側にまわることができ、それがやりがいや生きがいづくりにもつながるようコーディネートします。	・特技を披露したり、使用済み切手を整理したりするなど、ボランティア活動にもさまざまな形があり、それぞれにあった活動の紹介をすることで、支援を受けている人も支援する側にまわることができ、それがやりがいや生きがいづくりにもつながるようコーディネートします。	・ほほえみごはん 子育て中の106世帯に72名の活動者が関わり食を通じた支えあい活動を展開しています。活動終了後は利用世帯と活動者それぞれにアンケートで状況を調査し、利用者の声を活動者にお届けしています。年2回の連絡会と年1回の研修を通じて活動に関するスキルアップを図るとともに活動者の声を聞き、交流を深める機会をつくっています。 令和7年度は様々な関係者とも連携を深め、ささえあい活動の質を高めていきます。	・ほほえみごはん 活動者が安心して活動を継続できるよう、連絡会や研修会の内容を充実させ、子育て世帯へのサポート力を高めていきます。また、活動者がモチベーションを維持向上できる様、関係機関と活動者が交流できる機会を創出していきます。
				・いくつになっても自分らしく役割を持って生活したい人の	・いくつになっても自分らしく役割を持って生活したい人の	【就労センター】 就労や社会参加活動等に関する支援を行いました。 ・就労等窓口相談及び職業紹介(通年) 1月末現在/求職者数1,356件、紹介件数延270件	【就労センター】 就労や社会参加活動等に関する支援を行います。 ・就労等窓口相談及び職業紹介(通年) ・個別カウンセリング(随時) ・再就職支援セミナー(2回/年)

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
				ために、就労相談やセミナーを実施し、就労につなげていくことはもちろんのこと、地域貢献にも興味のある人を含めて幅広く役割づくりを支援します。	・個別カウンセリング(原則毎水曜日 48 回/年) 1 月末現在/40 回実施 ・予約制再就職支援セミナー(4 回/年) 1 月末現在/3 回実施 延 152 人参加・残 1 回 ・予約制面接会「合同・入替 各 2 回」(4 回/年) 1 月末現在/各 3 回実施 延 158 人参加 ・就労出張相談会(6 回/年)延 28 人参加 令和 7 年度の前記各事業については、当該事業に参加する求職者等の参加を更に促進するため、講師や内容・回数など、実施方法を見直し検討を行い、実施します。	・合同就職面接会(合同 2 回) ・就労出張相談会(3 日×2 回/年) ・社会参加活動等に関する情報提供(随時)
	地域で居場所づくりをする人や機会が数多くいる(ある)。	取組 4:居場所を提供する団体などを支援し、人が集う機会や役割を増やそう。	<p>・居場所の確保や運営スタッフの確保に困った時には、大田区社協のさまざまなネットワークを駆使し、活動が継続できるように支援します。</p> <p>・大田区社協の持つ広報手段を活用し、団体の活動PRを支援します。</p> <p>・新たに居場所づくりに取り組みたい団体や個人からの相談に応じ、支援します。</p> <p>・さまざまな助成金に関する情報を提供するなど、活動の継続を支援します。</p>	<p>・地域福祉活動団体支援事業やつどいの場支援事業を通じて居場所を運営する団体を支援します。</p> <p>・「歳末たすけあい・地域ふれあい募金」を活動団体支援のために活用します。</p> <p>・地域福祉コーディネーターによる地域づくり支援の一環として、居場所を必要とする人を居場所につなげるだけでなく、居場所の運営などの活動を、地域で支える働きかけを行います。</p> <p>・区内の居場所の情報が必要な人に向けてリストを作成し、SNSを含めたさまざまな手段による情報発信を行います。</p>	<p>【地域共生担当】 令和6年度上半期(9 月末)の個別支援ケース 196 件に対して 11 件(6%)を参加支援ケースとして支援を実施しました。個別の相談からお困りごとの解消だけでなく、地域の資源につながり、地域の活動の場に参加し、現在は担い手側として活躍されている方が複数います。</p> <p>【ボランティア担当】 ・地域福祉活動団体支援事業(通年60・イベント11・トライアル 6 団体)、「つどいの場」運営支援事業 104 団体(うち助成団体 75 団体)を通して団体支援を行いました。</p> <p>・助成団体へ歳末たすけあい運動の街頭募金への協力や「12/15 おおた広がれボランティアのつどい」の案内をし、参加がありました。令和7年度も、引き続き多様な地域福祉団体の活動への支援(広報や団体運営、ボランティアや参加者の募集など、団体が抱える課題への対応等)を地域福祉 co と連携しながら取り組みます。</p> <p>・大田区こども食堂連絡会 連絡会を年3回(6月、12月、3月)、連絡会に向けたコアメンバー会議を3回実施し、団体主体のネットワーク化を図ってきました。区内の団体数が 60 箇所を超え、立ち上げ支援・継続支援を地域福祉 co と連携して行いました。活動内容が多様化しているなか、令和7年度も引き続きこども食堂運営者と関係機関等が大田区の目指すべきこども食堂について、皆で議論を重ねていきます。</p>	<p>【地域共生担当】 地域福祉コーディネーターの活動の中で、居場所の立ち上げ等に携わるとともに、個別支援で関わった方を公的なサービスのみならず、居場所につないでいくことで、支援されるだけでなく、支援する側へ回れる機会を提供していきます。</p> <p>【ボランティア担当】 ・地域福祉活動団体支援事業(通年・イベント・トライアル)、「つどいの場」運営支援事業 6月に審査会を実施し、助成団体を決定します。また、助成を受けた団体同士の横のつながりづくりにも着目し、情報交換等をする機会を設けることで、団体の活動の拡がりや課題解決に向けた取組が共にできるよう働きかけます。</p> <p>・大田区こども食堂連絡会 連絡会規約を基に幹事団体を選出し、幹事団体を軸に連絡会の運営を行っていきます。また、多様化するこども食堂の運営や課題を連絡会の中でどのように解決していくか、団体と行政・専門機関等を交えて検討していきます。</p>



基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
3	身近なところでさえあうまち	ひとりで悩まずに、相談することができる場所(人)がある(いる)ことを知っている。	<p>・地域の身近な相談窓口である民生委員・児童委員の活動を、住民の皆さんに幅広く知っていただけるよう、大田区社協において周知や支援活動を行います。</p> <p>・民生委員・児童委員をはじめ地域の方々から、大田区社協に寄せられた相談を受けとめ、関係機関との調整を行います。</p> <p>・困りごとを抱えた人の支援方法について、関係機関などと一緒に考え、チームで支えていけるような体制づくりを行います。</p>	<p>・地域の人からの困りごとを受けとめ、専門機関につなげます。</p> <p>・進学の際の受験費用や塾代など、または学費などについてお困りの人の相談を受け、支援します(受験生チャレンジ支援事業など)。</p> <p>・生活の困りごとの相談を受け、支援します(生活福祉資金貸付事業)。</p> <p>・地域のイベントに参加する際は地域福祉コーディネーターによる相談ブースを設け、大田区社協の存在と役割を知ってもらえるよう努めます。</p>	<p>【地域共生担当】 困りごとを抱える方を専門機関につないだ割合は 51%となっています。今後は地域福祉コーディネーターの専門性の向上を図るべく、研修やコンサルテーションの実施や専門機関との相互理解を推進するための場づくりを推進していきます。</p> <p>【生活相談担当】 ・受験生チャレンジ支援貸付事業では、令和7年1月末日現在、貸付相談件数 2,774 件(貸付決定件数 511 件)、償還免除等相談件数 463 件(償還免除承認件数 522 件)の相談に対応しました。 ・生活福祉資金貸付事業では、令和7年 1 月末日現在、貸付相談件数 3,465 件(貸付決定件数 92 件)、償還等相談件数 1,056 件の相談に対応しました。 ・本貸付事業の相談者や借受人は、複合的な課題を抱えており、貸付だけでは課題解決に至らない世帯も多く、地域福祉コーディネーターや食料支援、ほほえみごはん事業、就労支援等の社協内の他部署との連携や、生活福祉課やJOBOTA 等関係機関との連携のもと相談支援に取り組みました。 ・令和7年度も、さらなる連携体制の構築に向け、関係機関等との情報共有会議や勉強会等を定期開催し、区民の生活課題・福祉課題解決につながるよう支援します。</p>	<p>【地域共生担当】 地域の人からの困りごとを受け止める活動とともに、地域福祉コーディネーターだけが受け止める体制から、地域の方と共に考え、取り組める仕組みの検討を行い、より多くの相談が早期に相談できる体制づくりに取り組みます。</p> <p>【生活相談担当】 ・貸付事業の相談窓口という役割を活用しながら、引き続き、広く区民の生活課題・福祉課題を受け止め、解決につながる相談支援を行います。 ・社協内他部署や関係機関を横断した相談支援を展開していくため、関係機関等との連絡会・勉強会を定期的に開催し、生活困窮者支援に関わる担当者とのさらなる連携強化を図ります。 ・教育支援資金(生活福祉資金)や受験生チャレンジ支援貸付事業貸付金の借入相談者に対しては、家庭における経済的な理由が子どもの進学への妨げとならないよう本貸付金の手続きに加え、他の給付金、助成金及び奨学金等関連施策への橋渡しを行います。 ・計画的な研修受講等により、相談員の相談対応力の向上に努めます。</p>
		身近な人の困りごとに心を寄せつつ互いに支えあっている。	<p>取組 6:ボランティア活動や企業などの地域貢献活動を通じて、地域の中の困りごとを受けとめ、みんなで支えあおう。</p> <p>・地域の中にある生活課題を、地域全体として受けとめ、それぞれがどのようなことができるかを一緒に考えていきます。</p> <p>・一つの団体で解決が難しい課題についても、地域のネットワークを活かしながら、複数の団体や企業などと一緒に解決に向けて取り組めるように、調整を行い</p>	<p>・ボランティア活動を行いたい人の相談に応じ、活動ができるように支援します。</p> <p>・気軽にできるボランティア活動(使用済み切手整理など)や地域貢献活動(フードドライブなど)のプログラムをつくっていきます。</p> <p>・地域貢献活動を行いたい団体や企業の</p>	<p>【地域共生担当】 地域課題を住民同士で話し合う場をつくるプラットフォーム事業の拡充・継続をしています。また、社会福祉法人協議会と連携した居場所・イベントを実施しました(3地区)。重層的支援会議のケースから、地域支援に展開を図っている事例があり、今後取り組んでいきます。</p> <p>【ボランティア担当】 ・夏！体験ボランティア事業 区内の文化施設とも連携して新たなプログラムを充実させ、163 名(延べ 261 名)の区民がボランティア活動に参加されました。令和7年度もプログラムを充実させ、多様な活動と出合いの機会をつくります。</p>	<p>【地域共生担当】 地域課題を住民同士で話し合う場をつくるプラットフォーム事業の継続・拡充を行います。プラットフォーム事業以外でも、住民同士が話し合える場の設定や仕組みづくりについて検討していきます。</p> <p>【ボランティア担当】 ・夏！体験ボランティア事業 区内の文化施設と共同し新たなプログラムを創出するとともに、様々な福祉施設、活動団体と共にプログラムを充実させ、区民が地域の課題に共に取り組み考える機会をつくっていきます。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と 令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
			ます。	<p>相談に応じ、活動を支援していきます。</p> <p>・地域貢献活動を行う団体や企業について幅広く周知し、さらに地域貢献活動が広がるよう、周知や啓発に取り組みます。</p>	<p>・<b>おおたフード支援ネットワーク事業</b> 新たに区内のスーパー5か所、調布地区の地域包括支援センター5カ所で常設型フードドライブが始まりました。これによって、地域包括支援センターから調布地区のこども食堂への食料品の引渡しという流れができ、専門機関と地域団体のつながりが広がりました。大田区社会福祉法人協議会調布エリアにて、食料品の配布とカフェスペースで身近な相談を聞くというフードパントリーイベントを開催しました。(8月、・12月)大田区社会福祉法人協議会大森エリアで開催された「こころ彩るほくほく祭り in 大森」のイベントに、フードパントリーコーナーを設置しました。(10月) 令和7年度は企業の地域貢献活動(CSR)の一環としてフードドライブを実施する企業を増やし、フード支援を通じたネットワークを拡充していきます。</p> <p>・<b>企業の地域貢献活動推進事業</b> CSR活動の新規相談は12社、CSR活動の新規支援は7社でした。「おおた企業ボランティア連絡会」の立ち上げには到っていませんが、大田区社協とつながる企業は少しずつ増えています。令和7年度は、このつながりをさらに拡充していきます。</p> <p>・<b>ボランティア活動推進事業</b> 地域のネットワークづくりのきっかけとなるボランティア活動への参加意識啓発のため、新たに「おおた広がれボランティアのつどい2024」を開催し、160名の参加がありました。(12月)令和7年度も年一回の開催を予定し、ボランティア活動について幅広く周知します。</p> <p>・机に座ったままで気軽に参加できるボランティア活動、SDGsへつながるボランティア活動として新しく「新聞紙(古紙)エコバックづくりボランティア」を毎月開催しました。完成した新聞紙エコバックは、こども食堂にお渡し、お菓子などを入れてこどもたちへお渡しする流れができました。 令和7年度は、夏ボラのメニューにも追加し、活動の輪を広げていきます。</p>	<p>・<b>おおたフード支援ネットワーク事業</b> 常設のフードドライブの拠点が増えていますが、臨時のフードドライブ事業も継続して行います。また、フードドライブ～フードパントリーまでを一貫して行う地域も出てきており、企業の地域貢献活動の一環として行うフードドライブもその輪を広げつつあります。そのような中で、地域や企業が地域住民と食を通じて繋がりがうしくみづくりをこれまで以上に推進していきます。</p> <p>・<b>企業の地域貢献活動推進事業</b> 令和6年度は、CSR活動に取り組む企業40社と連携・協力し、社内フードドライブを実施しました。令和7年度は、実施する企業をさらに増やし、フード支援につなげ、企業の地域貢献活動を推進します。</p> <p>・<b>ボランティア活動推進事業</b> 「おおた広がれボランティアのつどい2026」の開催を目指して、活動者とともに実行委員会を立ち上げます。実行委員の公募の方法としてセンターにつながる活動者を対象に「ボランティアのつどい2025」を1回開催し、活動者のスキルアップを図るとともに活動者同士の交流と繋がりを広げます。</p>



基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
4	お互いを認めあい誰もが自分らしく暮らせるまち	一人ひとりの生き方を理解し合っている。  取組 7:地域で暮らすさまざまな人たちへの理解を深めるために福祉学習に参加しよう。	<p>・教育現場における福祉学習にとどまらず、地域共生社会の実現に向けて、世代や分野を超えた幅広い視点において、多様性の理解を深める機会を作ります。</p> <p>・さまざまな団体で実施している学習会などを広く周知し、多くの人が参加できるようにします。</p>	<p>・福祉学習の進め方やプログラムの内容などについてアドバイスし、スムーズに実施できるよう支援します。</p> <p>・福祉学習の実施に必要な、講師の紹介や協力団体とのマッチング、物品の貸し出し(福祉体験用具など)を行います。</p> <p>・地域で暮らす外国人の支援について、身近な地域の中で話しあう場をつくります。</p> <p>・未来を担う小・中・高校生や若者への福祉教育を推進し、障害者をはじめ多様な人たちへの理解が深まるよう支援します。</p>	<p>【ボランティア担当】</p> <p>・夏！体験ボランティア事業 教育機関や若者サポートセンター、学習支援団体とも連携しながら広報を強化し、小学生～大学生まで計134名の方に参加いただきました。 令和7年度も教育機関との連携を継続し、オリエンテーションを充実させ、豊かな体験と学びの機会を創出します。</p> <p>・福祉学習 新たに地域共生担当と共にチームを作り、年度初めに、取り組みの現状と今年度のスケジュールを確認しました。福祉体験学習の支援を8回実施(小学校7回、中学校1回)する中で、いくつかの団体とつながり、地域住民、福祉の専門職とともに福祉教育プログラムを実施しました。メニュー表の作成については、現在、作成途中です。 引き続き学校を中心とした実践を広げ、大田区における福祉教育の理念を確立できるよう、しくみを作ります。</p> <p>【地域共生担当】 ボランティア担当と連携し、担当職員を配置して福祉学習に取り組みました。今年度はひとつの学校と地域住民等と連携し、福祉教育のプログラムを実施しました。引き続きボランティア担当と共に学校を中心とした実践を広げ、大田区における福祉教育の理念を確立できるよう、しくみを作ります。</p>	<p>【ボランティア担当】</p> <p>・夏！体験ボランティア事業 教育委員会と連携し区内の公立小中学校への広報を強化します。また、参加者向けのオリエンテーション動画を作成し、参加者が充実したボランティア学習に取り組めるようサポートしていきます。</p> <p>・福祉学習 学校を中心に実践の場を増やし、学習のプログラムを進めるにあたっては、より多くの地域の団体、地域住民、福祉の専門職と協働しながら、大田区における福祉教育の理念を確立できるよう、しくみを作ります。</p> <p>【地域共生担当】 ボランティア担当と連携し、様々な方と協力する福祉教育プログラムの作成に取り組めます。また、学校以外の場での福祉教育の取り組みについても検討していきます。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
	判断能力の低下などに関わらず、すべての人が地域の中で自分らしく生きている。	取組 8:障害や認知症などの有無にかかわらず、誰もが自分らしく生きられるよう、権利擁護の推進をはじめとした支援について理解しよう。	<p>・地域で暮らす方々が、自分らしい生活を継続するために、複雑な困りごとを抱えていても、地域の中でサポートできる連携ネットワークをつくります。</p> <p>・権利擁護の研修や事例検討会などを通して、関係機関との顔の見える関係をつくり、チーム支援をしやすい体制づくりを行います。</p> <p>・「親なきあと」の取組について、親の不安や悩みに寄り添いながら、老いじたく講演会や親なきあと講演会などを一緒に企画します。</p> <p>・市民後見人や地域で意思決定支援に携われる人材の育成や支援に取り組みます。</p>	<p>・成年後見制度推進機関として、障害や認知症により権利が損なわれないよう成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の周知啓発を行い、関係機関と連携して制度の利用に関する相談支援を行います。</p> <p>・福祉法律相談など住民の権利が守られるよう法律の専門家に気軽に相談できる場をつくります。</p> <p>・[地域版]老いじたくセミナーなど、専門職団体や行政機関と共同して、権利を守るための研修会を実施します。</p> <p>・中核機関として権利擁護支援検討会を開催し、個々のケースに応じた支援が実施できるよう、各機関・福祉事業者が専門家からのアドバイスを得られる機会をつくります。</p> <p>・親族後見人の悩みなどを共有しながら、後見人としての活動をサポートします。</p> <p>・民生委員・児童委員協議会や自治会・町会などの集まりなど、地域の身近な場において、老いじたく</p>	<p>【おおた成年後見センター】</p> <p>・老いじたくの推進 5月28日、各特別出張所と包括支援センター職員向けに、地域版老いじたくセミナー説明会を開催し、老いじたくへの共通理解を図りました。</p> <p>また、区民向けに、老いじたくセミナー(6地区)と10月25日に老いじたく講演会を開催し、老いじたくの必要性の理解と始めるきっかけとなるよう取り組み、延べ345名の参加がありました。</p> <p>老いじたくへの関心はますます高まっており、より分かり易い内容となるよう、詳細版のパンフレット改訂をすすめています。</p> <p>・親なきあと講演会 11月5日、障害児者親の会、11月15日、区内福祉施設と地域包括支援センター並びに社協三者が連携し、保護者向けに講演会を開催しました。3月にも区内福祉施設利用者の保護者向けに実施予定です。</p> <p>令和7年度も、区内障害施設等へ広く呼びかけ、親なきあとと親自身の備えにつなげていきます。</p> <p>・市民後見人活躍支援等 令和6年度は、専門職が受任しているケースから市民後見人へのリレー実績は2件(他準備中1件)です。</p> <p>市民後見人サポート連絡会では、専門職各々のサポート内容や課題等の共有を図り、一定のサポートがなされるよう、意見交換等を行いました。</p> <p>また、市民後見人とはあとなあ東京との意見交換の場を設定し、顔の見える関係づくりに取り組みました。</p> <p>令和7年度は、市民後見人養成講習(基礎講習)のあり方を見直し、「地域共生社会の実現に向けた意思決定支援」について広く区民に関心を持っていただくために周知啓発の機会を拡充します。</p> <p>・出前講座 地域包括支援センター8地区、地域福祉課3件、その他地域団体等11件の依頼に応じ、老いじたくの推進や成年後見制度等の正しい理</p>	<p>【おおた成年後見センター】</p> <p>・権利擁護の地域連携ネットワークづくり 一人ひとりの意思が尊重され、権利が擁護される地域づくりを推進、強化するための「地域連携ネットワーク強化部会」を年2回開催予定です。</p> <p>また、日常的な金銭管理を行う新たなしくみを検討するための「金銭管理勉強会」についても7月と12月に開催予定です。</p> <p>・老いじたくの推進 身近な地域において、老いじたくに役立つ知識等を、弁護士が講師となって説明する「地域版老いじたくセミナー」を特別出張所等と連携し、6地区で実施します。</p> <p>また、令和6年度に改定した老いじたくパンフレットを通じて、前向きに安心して暮らすための備えを提案していきます。</p> <p>・親なきあとの取り組み 障害者団体のみでなく、区内障害者施設・保護者会とともに講演会等を企画します。6月以降に実施予定です。</p> <p>・受任調整支援の検討 適切な後見人等の選任・交代に向けた受任調整支援のしくみづくりを検討していきます。</p> <p>・権利擁護支援の推進(「市民後見人の育成・活躍支援」「出前講座」など) 地域のなかに、権利擁護支援への意識の醸成を図るために、社会貢献型後見人養成研修の基礎講習のあり方を見直します。自身に合った活動につながるだけでなく、地域への理解や関心が深まるよう、2つのコースからの選択制とし、地域福祉活動への参加や協力についても呼びかけていきます。</p> <p>また、自治会・町会等をはじめとする地域団体や、福祉従事者が企画する成年後見制度や老いじたくの講座に職員を講師として派遣します。</p>

基本目標	5年後の地域の姿	取組	5年後に向けてみんなと一緒にできること		令和6年度の主な取組の進捗状況と令和7年度に向けての取組の方向性	令和7年度の主な取組
			大田区社会福祉協議会と一緒に取り組むこと	大田区社会福祉協議会だからこそできること		
				くや成年後見制度についての出前講座を行います。	解につながるよう取り組みました。 令和 7 年度も、各関係機関と連携していきます。	